

看護基礎教育課程の基礎看護技術演習に関する研究の動向 —2015年から2021年に発表された研究に焦点を当てて—

渡邊光代 辰島美佐江 唐沢博子
(Mitsuyo WATANABE, Misae TATSUSHIMA, Hiroko KARASAWA)

【要約】

《目的》基礎看護技術演習に関する研究の動向を解明し、効果的な基礎看護技術演習の実現に向けて必要な研究課題を検討する。

《方法》研究方法には看護教育学における先行研究分析を用いた。医学中央雑誌Webを用い、2015年から2021年までに発表された文献を検索し、基礎看護技術演習に焦点を当てた研究40件を分析対象とした。研究対象は単純集計し、研究内容は、意味内容の類似性に基づきカテゴリ化した。

《結果》研究の85.0%が学生のみを対象としていた。基礎看護技術演習に関する研究内容を表す【学生の主体的な学習活動を促すアクティブラーニング型授業を導入した基礎看護技術演習による教育効果】、【基礎看護技術演習における学生の主体的学習活動に関係する要因】など9カテゴリを明らかにした。

《結論》今後の研究上の課題として、1) 学生の能動的な学修を促進する演習の解明、2) 臨場感を演出する演習の解明、3) 正確な技術を修得できる学生の特性の解明、4) 科学的根拠に基づく知識と関連づけた演習の解明、5) 効果的な演習を展開する教員の教授活動の解明、6) 研究対象となる学生に対する倫理的配慮、7) 演習の教育効果を研究的に明らかにするための適切なデータ選択の7点の示唆を得た。

キーワード：看護基礎教育課程、基礎看護技術演習

I. 緒言

看護基礎教育をめぐる現状及び課題を踏まえ、厚生労働省は、「看護基礎教育検討会報告書（以下、報告書）¹⁾」の中に、将来を担う看護職員を養成するためのカリキュラム改正案や教育体制、教育環境に関する内容を明示した。この報告書を受け、保健師助産師看護師学校養成所指定規則の一部を改正する省令が公布され、この改正省令を受け、「看護師等養成所の運営に関する指導ガイドラインについて（以下、ガイドライン）」の一部も改正された²⁾。

改正の趣旨としては、高い看護実践力の修得に向け、臨床判断力が修得できるように、現行の科目内容の工夫だけでなく、新規科目の可能性も検討すること

が求められた。基礎看護学に関する教育内容としては、臨床判断力や看護の基盤となる基礎的理論や基礎的技術、看護の展開方法等を学ぶ内容とし、シミュレーション等を活用した演習を強化する内容の充実が緊要となった。また、2020年に発生した新型コロナウイルス感染症（COVID-19）のパンデミックを受け、感染予防の観点から、基礎看護技術演習の教育内容の検討に加え、教育方法の変更を余儀なくされた。これらは、多様な対象に対して看護実践を展開できる高い実践能力の修得に向け、臨床判断能力や看護の基礎的知識や技術を修得するための効果的な基礎看護技術演習に活用する研究成果を蓄積する必要があることを示す。そのためには、まず、基礎看護技術演習に関する研究の動向を明らかにし、取り組むべき研究課題を解

明する必要がある。

文献を検索した結果、基礎看護技術演習に関する研究の動向を解明している研究4件³⁻⁶⁾の存在を確認した。これらの研究は、1991年から2015年に発表された研究を分析対象としていた。4件のうち2件の対象文献は、基礎看護学領域に限定せず、他領域の看護技術教育を含んでいた。また、4件のうち3件の対象文献は、演習に限定せず、看護技術教育全般を含んでいた。これは、基礎看護技術演習に焦点を当て、2015年以降に発表された研究を対象とし、その動向や取り組むべき研究課題を解明した研究が存在しないことを示す。以上を前提とした本研究は、2015年から2021年までに発表された基礎看護技術演習に関する研究の動向を解明し、効果的な基礎看護技術演習の実現に向けて必要な研究課題を検討することを目的とする。

II. 研究目的

2015年から2021年までに国内で発表された基礎看護技術演習に関する研究の動向を解明する。その結果を考察し、効果的な基礎看護技術演習の実現に向けて必要な研究課題を検討する。

III. 用語の定義

1. **基礎看護技術**：看護技術とは、看護の専門知識に基づいて対象の安全・安楽・自立を目指した目的意識的な直接行為である⁷⁾。また、基礎看護学とは、看護学の基礎となる看護の概念・理論、倫理、歴史と看護実践の基礎的技術を教育・研究する分野である⁸⁾。これらの定義を前提とし、基礎看護技術とは、看護学の基礎となる専門知識に基づいて対象の安全・安楽・自立に必要な看護実践の基礎的技術と定義する。

2. **基礎看護技術演習**：看護学演習とは、学生の身体活動や自由な思考活動および体験を活用し、講義により修得が困難な看護実践の基盤となる能力の獲得を目指して展開される授業である⁹⁾。また、前述の基礎看護技術の定義を前提とし、基礎看護技術演習とは、学生の身体活動や自由な思考活動などの体験を活用し、看護学の基礎となる専門知識に基づいて対象の安全・安楽・自立に必要な看護実践の基礎的技術の獲得

を目指して展開される授業と定義する。

IV. 研究方法

1. **先行研究分析の方法**：設定した目的を達成するために系統立った一連の方法に基づき、看護基礎教育などに資する既存の研究をデータとして網羅的に収集、分析する「看護教育学における先行研究分析」¹⁰⁾の方法を用いた。

2. 分析対象とする研究の検索

基礎看護技術演習に関する国内の研究を次のように検索した。医学中央雑誌Web (Ver. 5) を用いて、キーワードを「基礎看護技術」「演習」に設定し、2015年から2021年までに発表された文献59件を検索した。検索した文献のタイトル・要旨を概観し、59件のうち19件は実践報告や解説など、研究論文ではなかったため、分析対象から除外し、基礎看護技術演習に焦点を当てた研究40件を分析対象とした。

3. 分析方法

1) **データ化**：先行研究分析のための分析フォーム¹¹⁾から選定した「研究対象」、「研究内容の要約」より構成された分析フォームを用い、分析対象とした研究の概要を記載した。

2) **分析**：「研究対象」は、単純集計した。「研究内容の要約」の分析には、Berelson, B.の内容分析の手法¹²⁾を用い、次のように分析した。①「研究内容の要約」を基に、研究の目的、方法、結果に関する情報を短縮表示したものを「研究内容コード」とした。なお、2つ以上の結果を含んでいる研究は、1つの結果を1研究内容コードとして作成し、1つの研究から2つ以上の研究内容コードを作成した。②「研究内容コード」を意味内容の類似性に従い分類し、その分類を忠実に反映したカテゴリネームをつけた。③カテゴリに分類された記録単位数を算出した。

3) **カテゴリの信頼性の確保**：分析過程において、共同研究者間にて複数回検討し、カテゴリの信頼性を確保した。

V. 結果

1. 研究対象の詳細

1) データ提供者：学生のみが34件（85.0%）、看護学教員のみが4件（10.0%）、看護学教員と臨床実習指導者が1件（2.5%）であった。残る1件（2.5%）は、基礎看護技術教育に関する文献を分析対象としていた（図1）。また、学生をデータ提供者としている研究34件すべては、研究者が所属している施設や特定の施設に所属する学生を対象としていた。

2) 分析対象としたデータの種類：「学生の学習成果物」が20件（50.0%）、「学生の学習活動に対する自己評価結果」が14件（35.0%）、「看護学教員の演習に対する知覚」が3件（7.5%）、「看護学教員の教授技術に対する知覚」が1件（2.5%）、「看護学教員・臨床実習指導者の演習に対する知覚」が1件（2.5%）、「臨床実習指導者の演習に対する知覚」が1件（2.5%）、「基礎看護技術教育に関する文献」が1件（2.5%）であった（図2）。

2. 研究内容を表すカテゴリ

対象研究40件から得られた研究内容コード数は42コードであった。これらのコードを意味内容の類似性に基づき分類した結果、9カテゴリが形成された（表1）。次に、9カテゴリに沿って結果を論述する。

【1. 学生の主体的な学習活動を促すアクティブラーニング型授業を導入した基礎看護技術演習による教育効果（13コード：31.0%）】

このカテゴリは、学生の主体的な学習活動を促すために、学生個々が自己練習場面を撮影した動画を活用して学習したり、学生間による相互評価を取り入れたり、グループメンバー間にて協同して学習したりするアクティブラーニング型授業を導入した基礎看護技術演習による教育効果を解明した研究から形成された。

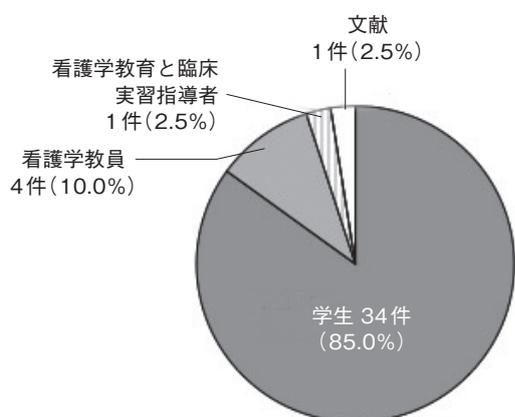


図1 データ提供者 (n = 40)

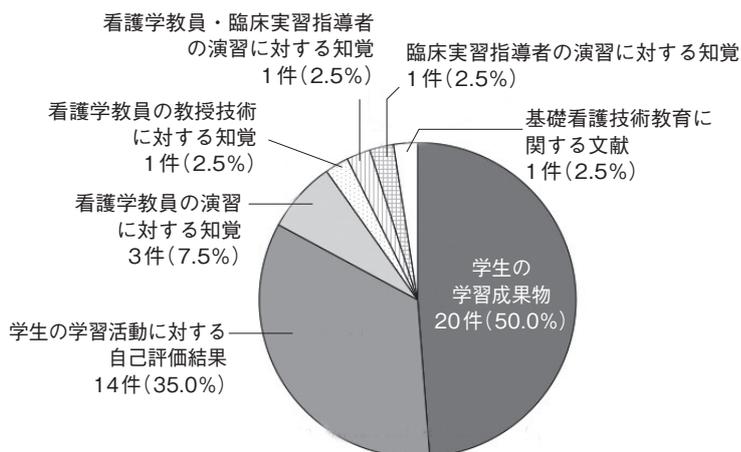


図2 分析対象としたデータの種類 (n = 42)

表1 基礎看護技術演習に関する研究内容

カテゴリ名	研究内容コード数 (%)
1. 学生の主体的な学習活動を促すアクティブラーニング型授業を導入した基礎看護技術演習による教育効果	13 (31.0%)
2. 基礎看護技術演習における学生の主体的な学習活動に関係する要因	8 (19.0%)
3. 臨床状況に近づけられるように臨場感の演出を導入した基礎看護技術演習による教育効果	8 (19.0%)
4. 臨床における実践内容との比較・学習成果・先行文献の検討からみた基礎看護技術演習に必要な教育内容	4 (9.5%)
5. 学生の基礎看護技術修得に関係する要因	3 (7.1%)
6. 基礎看護技術のeラーニングシステム導入による学生の自己学習活動の効果	2 (4.7%)
7. 臨床看護師と看護学教員が協働する基礎看護技術演習の実施に関係する要因	2 (4.7%)
8. 他学問分野との合同基礎看護技術演習による教育効果	1 (2.4%)
9. 看護学教員が知覚する基礎看護技術演習において説明に用いた重要な用語	1 (2.4%)
研究内容コード総数	42 (100%)

このカテゴリは、13研究内容コードから形成され、全体の約3割を占め、9種類の内容から形成された。

【2. 基礎看護技術演習における学生の主体的学習活動に関係する要因（8コード：19.0%）】

このカテゴリは、学生の主体的な学習活動を促すために、学生の基礎看護技術に対する自己学習や学生の学習への動機づけなどの学生の主体的学習活動に関係する要因を解明した研究から形成された。このカテゴリは、8研究内容コードから形成され、全体の約2割を占め、4種類の内容から形成された。

【3. 臨床状況に近づけられるように臨場感の演出を導入した基礎看護技術演習による教育効果（8コード：19.0%）】

このカテゴリは、臨床状況に適応できる学生の基礎看護技術修得を促すために、臨床看護師が演習指導に参加したり、模擬患者を対象とした演習を展開したりする臨床状況に近づけられるような臨場感の演出を導入した基礎看護技術演習による教育効果を解明した研究から形成された。このカテゴリは、8研究内容コードから形成され、全体の約2割を占め、6種類の内容から形成された。

【4. 臨床における実践内容との比較・学習成果・先行文献の検討からみた基礎看護技術演習に必要な教育内容（4コード：9.5%）】

このカテゴリは、基礎看護技術演習に必要な教育内容を検討するために、臨床における実践内容と学内演習での実践内容を比較したり、学生の学習成果の内容や先行研究結果を検討したりして基礎看護技術演習に必要な教育内容を解明した研究から形成された。このカテゴリは、4研究内容コードから形成され、全体の約1割を占め、4種類の内容から形成された。

【5. 学生の基礎看護技術修得に関係する要因（3コード：7.1%）】

このカテゴリは、学生の効果的な基礎看護技術修得を促すために学生の自己評価活動などの基礎看護技術修得に関係する要因を解明した研究から形成された。

このカテゴリは、2種類の内容から形成された。

【6. 基礎看護技術のeラーニングシステム導入による学生の自己学習活動の効果（2コード：4.7%）】

このカテゴリは、学生の主体的な学習活動を促すために、自己学習に活用可能な電子書籍や動画が閲覧可能なタブレット端末などのeラーニングシステム導入による学生の自己学習活動の効果を解明した研究から

形成された。このカテゴリは、2種類の内容から形成された。

【7. 臨床看護師と看護学教員が協働する基礎看護技術演習の実施に関係する要因（2コード：4.7%）】

このカテゴリは、学生の看護実践能力の向上に向け看護学教員と臨床実習指導者をはじめとする臨床看護師の連携を強化するために、臨床看護師と看護学教員が協働する基礎看護技術演習の実施に関係する要因を解明した研究から形成された。このカテゴリは、2種類の内容から形成された。

【8. 他学問分野との合同基礎看護技術演習による教育効果（1コード：2.4%）】

このカテゴリは、科学的根拠に基づく基礎看護技術を修得するために、他学問分野である物理学との合同基礎看護技術演習による教育効果を解明した研究から形成された。

【9. 看護学教員が知覚する基礎看護技術演習において説明に用いた重要な用語（1コード：2.4%）】

このカテゴリは、看護学教員の効果的な教授技術を検討するために、基礎看護技術演習におけるデモンストレーション時の教授技術の1つである説明に用いた重要な用語を解明した研究から形成された。

V. 考察

研究対象からみた基礎看護技術演習に関する研究の動向と課題を考察する。次に、研究内容からみた基礎看護技術演習に関する研究の動向と課題を考察する。

1. 研究対象からみた基礎看護技術演習に関する研究の動向と課題

研究対象を「データ提供者」、「分析対象としたデータの種類」の視点に基づき、基礎看護技術演習に関する研究の動向と課題を考察する。

1) データ提供者からみた基礎看護技術演習に関する研究の動向と課題

データ提供者の詳細は学生のみが34件（85.0%）看護学教員のみが4件（10.0%）、看護学教員と臨床実習指導者が1件（2.5%）であった。残る1件（2.5%）は、基礎看護技術教育に関する文献を分析対象としていた。これらは、教育の対象である学生が、データ提供者の約8割を占めていることを示す一方、授業を展

開する看護学教員の占める割合が、わずかに約1割であることを示す。授業とは、「相対的に独立した学習主体としての学習者の活動と教授主体としての教授者の活動が相互に知的対決を展開する過程¹³⁾」である。これは、基礎看護技術演習という授業が、学習主体である学生の活動のみならず、教授主体である教員の活動により成立することを示す。また、学生の学習活動とともに教員の教授活動も検討する必要性を示す。これらの現状は、基礎看護技術演習に関する研究の多くが、学習主体である学生に焦点を当てており、教授主体である教員に焦点を当てた研究が少ないことを示唆する。

また、学生をデータ提供者としている研究34件すべては、研究者が所属している施設や特定の施設に所属する学生を対象としていた。学生は、評価を受ける教員から研究への参加依頼を受けた場合、学習の影響を考え、参加を断りにくい¹⁴⁾。これらは、学生に研究協力を依頼する際、評価に直接関わらない立場の者が、研究趣旨を説明し、学生自身の意思に基づき研究参加の可否を決定できるように研究協力を依頼するなど、学生に強制力が働かないように配慮する必要があることを示す。

以上は、効果的な基礎看護技術演習の実現に向け、教授主体である教員に焦点を当てた研究の蓄積が、今後の課題であることを示唆する。また、学生を対象とする研究を実施する際、学生への強制力を最小限にするように、研究協力を依頼する説明内容やデータの回収方法などの倫理的配慮を十分に検討する必要がある。

2) 分析対象としたデータの種類からみた基礎看護技術演習に関する研究の動向と課題

分析対象としたデータの種類の詳細は、実技試験や学びの記述などの学生の学習成果物が20件(50.0%)、学生の学習活動に対する自己評価結果が14件(35.0%)、看護学教員の演習に対する知覚3件(7.5%)、看護学教員の教授技術に対する知覚が1件(2.5%)、看護学教員・臨床実習指導者の演習に対する知覚が1件(2.5%)、基礎看護技術教育に関する文献が1件(2.5%)であった。これは、分析対象としたデータの約8割が、実技試験や学びの記述などの学習成果物や学生の学習活動に対する自己評価結果という学生の成果物であることを示す。34件の研究は、実技試験や学びの記述や学習の自己評価結果などの、学生の成果

物を基に、基礎看護技術演習の教育効果を明らかにしていた。学生の成果物とは、学生が授業科目、プログラム、教育課程などにおける所定の学習期間終了時に獲得し得る知識・技術・態度などの成果を指す¹⁵⁾。基礎看護技術演習後の実技試験や自己評価活動などの学生の学習成果は、受講した演習そのものの教育効果のみならず、それまでに受講した演習などの教育効果、授業時間以外の技術練習などの、自己学習の影響を受けている可能性がある¹⁶⁾。

これらは、学生の成果物である実技試験や自己評価結果は、基礎看護技術演習による教育効果以外の要因として、学生自身のレディネスや個々の能力に影響を受ける可能性が高く、対象としている技術演習の教育効果を適切に実証しているとは言い切れない。基礎看護技術演習の教育効果を研究的に明らかにするためには、対象としている演習の教育効果そのものを明らかにできる適切なデータを選択する必要がある。

以上は、効果的な基礎看護技術演習の実現に向け、基礎看護技術演習の教育効果を研究的に明らかにするための適切なデータを選択する必要性を示唆する。

2. 研究内容からみた基礎看護技術演習に関する研究の動向と課題

基礎看護技術演習に関する研究内容を分析した結果、次の9カテゴリが形成された。9カテゴリとは、【1. 学生の主体的な学習活動を促すアクティブラーニング型授業を導入した基礎看護技術演習による教育効果】、【2. 基礎看護技術演習における学生の主体的学習活動に関する要因】、【3. 臨床状況に近づけられるように臨場感の演出を導入した基礎看護技術演習による教育効果】、【4. 臨床における実践内容との比較・学習成果・先行文献の検討からみた基礎看護技術演習に必要な教育内容】、【5. 学生の基礎看護技術修得に関する要因】、【6. 基礎看護技術のeラーニングシステム導入による学生の自己学習活動の効果】、【7. 臨床看護師と看護学教員が協働する基礎看護技術演習の実施に関する要因】、【8. 他学問分野との合同基礎看護技術演習による教育効果】、【9. 看護学教員が知覚する基礎看護技術演習において説明に用いた重要な用語】である。

9カテゴリのうち、第1に着目したカテゴリは、【1】、【2】、【6】である。これら3つのカテゴリは、学生の主体的な学習活動の促進に着目していた。

【1】と【2】は、学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習法であるアクティブラーニング型授業の導入による教育効果を解明した研究や学生の主体的な学習活動に関係する要因を解明した研究から形成された。また、カテゴリ【6】は、学生の自己学習の促進に向け、電子書籍や動画を閲覧可能なタブレット端末などのeラーニングシステム導入による学生の学習効果を解明した研究から形成された。これらの研究は、全体の約6割弱を占めており、基礎看護技術演習に取り組む学生の主体的な学習活動の促進が、多くの教員の関心事であり、学習者の能動的な学修への参加を取り入れたアクティブラーニング型授業の教育効果やeラーニングシステムの学習効果を実証していた。

アクティブラーニングとは、「教員による一方的な講義形式の教育とは異なり、学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習法の総称であり、学修者が能動的に学修することによって、認知的、倫理的、社会的能力、教養、知識、経験を含めた汎用的能力の育成を図る学習法¹⁷⁾」である。また、eラーニングとは、「学生が、学習管理システム(LMS)などを用い、自己の理解度に応じて学習を進め、自己診断の結果に基づき、適宜、教員の指導を受ける学修スタイルであり、学生のアクティブラーニングを促進するツール¹⁸⁾」の1つである。さらに、基礎看護技術演習とは、学生の身体活動や自由な思考活動などの体験を活用する授業である。基礎看護技術演習中の学生は、看護師役と患者役を演じるという身体活動を展開する。また、看護師役と患者役の学生同士は、患者役の立場として感想や意見を発言したり、看護師役の立場として実施した看護技術の課題や克服方法を発言したりするという思考活動を展開する。これらは、学生が看護技術を修得するためには、講義という受動的な学修に加え、学生自身が考えたり、体験したりするという能動的な学修を促進する基礎看護技術演習の展開が不可欠であることを示す。

以上は、効果的な基礎看護技術演習の実現に向け、学生の能動的な学修を促進するための多様なアクティブラーニングの方法を吟味し、それらを導入した基礎看護技術演習に関する研究の蓄積が、今後の課題であることを示唆する。

第2に着目したカテゴリは、【3】、【4】、【7】である。これら3つのカテゴリは、臨床状況に適応

できる基礎看護技術修得の促進に着目していた。【3】と【7】は、学内の演習において臨床状況に近づけるような臨場感を演出するために、基礎看護技術演習に模擬患者を導入したり、臨床看護師が演習指導に参加したりする工夫を導入した基礎看護技術演習による教育効果を解明した研究から形成された。また、【7】は、臨床状況に応じた基礎看護技術演習を展開するために、臨床実習指導者をはじめとする臨床看護師と看護学教員が連携した演習展開に関係する要因を解明した研究から形成された。さらに、【4】は、臨床状況の実践内容と学内の演習内容の乖離を埋めるために、臨床における実践内容と学内演習での実践内容を比較したり、先行研究結果を検討したりして基礎看護技術演習に必要な教育内容を解明した研究から形成された。これらの研究は、全体の約4割を占めており、臨床状況に適応できる基礎看護技術修得の促進が、多くの教員の関心事であり、臨床状況に近づける臨場感を醸し出す演習や臨床における実践との乖離を埋めるための教育内容を検討していた。

学生は、臨床看護師の演習指導や模擬患者を対象とした演習に対して、「臨床状況のイメージ化」や「臨床現場での技術応用の機会を知る」というメリットを感じている。その一方、臨床看護師から指導された技術が基本と異なり、戸惑うというデメリットを感じている¹⁹⁾。また、演習に参加した臨床看護師は、学生への指導内容に困った経験を明らかにしている²⁰⁾。これらは、臨床看護師や模擬患者という臨床状況をイメージしやすい演出が、臨床状況に適応する基礎看護技術の修得に効果的であることを示す。その一方、教育に関する準備状態を整えていない臨床看護師が、基礎看護技術演習の指導に必要な知識・技術を修得する必要があることを示す。さらに、基礎看護技術演習に参加した臨床看護師は、学生の現状を把握できたことをよかったと知覚している一方、演習での指導内容では、困った経験として、教育と臨床での看護援助の違いと主体的に学習を促す関わりなどで戸惑っている。また、勤務の都合上調整がつきにくいことなど参加する時間の確保や看護学教員との連携が困難であったと知覚していることを明らかにした^{19), 20)}。

2022年度の指定規則改正を踏まえた看護基礎教育課程において、高い看護実践能力の修得に向け、看護学生の臨床判断力を強化する教育内容と教育方法の充実が求められる。特に、基礎看護学に関する単位数が

増加し、看護学生の臨床判断力の修得に向けた基礎看護技術演習の充実が重要な課題である。看護学生が臨床判断力を修得するためには、シミュレーション教育やロールプレイ等、模擬的に実際の臨床に近い状況を演出し、その状況において基礎看護技術演習を展開²¹⁾する必要がある。対象としての模擬患者を導入したり、臨床看護師が演習指導に携わったりする看護技術演習は、シミュレーション教育やロールプレイ等を導入している教育に該当する。これらは、看護学生の臨床判断力の修得に向け、臨床看護師や模擬患者を導入した基礎看護技術演習が効果であることを示すとともに、学内演習において臨床状況に近づける臨場感を演出するシミュレーション教育やロールプレイ等を活用した演習の充実が求められる。また、臨床看護師が、所属している病院の勤務と並行して学内の基礎看護技術演習に参加することは困難であり、臨床看護師と看護学教員が連携して展開する基礎看護技術演習のあり方を検討する必要がある。

以上は、効果的な基礎看護技術演習の実現に向け、臨床状況に適応できる基礎看護技術修得を促進するために、模擬患者の導入や臨床看護師との連携など多様な方法を検討しながら、学内演習において臨床状況に近づける臨場感を演出するシミュレーション教育等を活用した演習の効果を解明する研究の蓄積が今後の課題である。

第3に着目したカテゴリは、【5】である。このカテゴリは、学生の基礎看護技術修得に関係する要因に着目し、学生の自己評価活動やパフォーマンス評価結果などの基礎看護技術修得に関係する要因を解明した研究から形成された。

看護技術とは、対象である人間への働きかけであり、その人との関係性の中で実施されるもの²²⁾である。看護学生の多くは、核家族の中で育ており、同世代や親世代以外の人々と関わった経験が少ないため生活体験の不足から、手先の不器用さや対人との距離がつかみにくく、コミュニケーション能力が乏しいことが指摘されている。専門的知識と技術を駆使する看護技術を修得することに難渋している²³⁾。これらは、看護学生が、看護の対象となる幅広い世代の人々と相互行為を展開しながら関係性を構築した上での看護技術の提供を求められることを示す。看護学生の中には、専門的知識と技術を駆使する看護技術の修得に難渋している者がいる一方、講義内容の知識や演習内容

の技術を理解し、正確な看護技術を修得できている者も存在する。正確な看護技術を修得できている学生は、講義内容の知識を理解できるまで復習していたり、演習する看護技術の動画を繰り返し視聴していたり、教員からの指導を積極的に要望したりするなど技術修得に向け、効果的な学習活動を展開している者が多い。これらは、正確な看護技術を修得できる学生の特性を解明できれば、正確な看護技術を修得するための効果的な学習活動を明らかにできる可能性があることを示す。

以上は、効果的な基礎看護技術演習の実現に向け、正確な基礎看護技術を修得できる学生の特性を解明する研究成果の産出が今後の課題である。

第4に着目したカテゴリは、【8】である。このカテゴリは、科学的根拠に基づく基礎看護技術の修得に着目し、他学問分野である物理学との合同演習による教育効果を解明した研究から形成された。

ガイドラインは、看護師教育の基本的考え方の1つとして、「科学的根拠に基づいた看護の実践に必要な臨床判断を行うための基礎的能力を養う²⁾」ことを明記している。具体的には、専門基礎分野の留意点として、「看護学の観点から人体を系統立てて理解し、健康・疾病・障害に関する観察力、判断力を強化するため、解剖生理学、生化学、栄養学、薬理学、病理学、病態生理学、微生物学等を看護実践の基盤として学ぶ¹⁾」内容と記載されている。また、基礎看護学は、臨床判断能力や看護の基盤となる基礎的理論や基礎的技術、看護の展開方法等の学びを求められている。これらは、科学的根拠に基づく看護技術を修得するために、看護実践の基盤となる解剖生理学、生化学、栄養学、薬理学、病理学、病態生理学、微生物学等の専門基礎分野に関する知識との関連づけが不可欠であることを示す。本研究の結果は、基礎看護技術と物理学の知識を関連づけた演習の教育効果が解明されている一方、他学問との関連づけについては解明されていないことを明らかにした。

以上は、効果的な基礎看護技術演習の実現に向け、科学的根拠に基づく基礎看護技術を修得するために、看護学教員が、解剖生理学、生化学、栄養学、薬理学、病理学、病態生理学、微生物学等の専門基礎分野に関する知識と関連づけた基礎看護技術演習の在り方を研究的に解明することが今後の課題である。

第5に着目したカテゴリは、【9】である。このカ

テゴリは、看護学教員の基礎看護技術演習における教授活動に着目し、基礎看護技術演習における効果的な教授技術を解明した研究から形成された。

基礎看護技術演習とは、学生の身体活動や自由な思考活動などの体験を活用し、看護学の基礎となる専門知識に基づいて対象の安全・安楽・自立に必要な看護実践の基礎的技術の獲得を目指して展開される授業である。授業とは、「相対的に独立した学習主体としての学習者の活動と教授主体としての教授者の活動が相互に知的対決を展開する過程¹³⁾」である。教授活動とは、「教育目標の達成に向けて、教員が教材を媒介にして、知識・技術の修得を旨とする学生の学習活動を支援する活動²⁴⁾」である。これらは、基礎看護技術演習という授業を展開する看護学教員の教授活動の質が、看護技術の修得を旨としている看護学生の学習活動の質に影響するとともに、教授活動の質の程度が、看護学生の看護技術の修得度に影響する可能性を示唆する。看護学生の看護技術の修得度の向上するためには、基礎看護技術演習を展開する看護学教員の効果的な教授活動に資する知識が必要である。本研究の結果は、基礎看護技術演習に関する研究内容を表す9カテゴリのうち、基礎看護技術演習を展開する看護学教員の教授活動に着目した研究内容が1件のみであることを明らかにした。

以上は、効果的な基礎看護技術演習の実現に向け、基礎看護技術演習を展開する教員の効果的な教授活動に活用可能な研究成果の産出が今後の課題である。

3. 本研究の限界と課題

本研究は、看護技術演習のうち、基礎看護技術演習に焦点に当て、その研究の動向を解明しており、今後、取り組むべき基礎看護技術演習に関する研究課題を示唆した。しかし、他領域の看護技術演習に関する研究を含めた看護技術演習の動向を解明できなかったことは、本研究の限界である。今後の課題は、基礎看護学以外の領域も含めた看護技術演習に関する研究の動向を解明することである。

VI. 結論

1. 基礎看護技術演習に関する研究内容を分析した結果、9カテゴリが形成された。

2. 効果的な基礎看護技術演習の実現に向けて必要

な研究課題に関する7点の示唆を得た。

1) 学生の能動的な学修を促進する演習の解明、2) 臨場感を演出する演習の解明、3) 正確な看護技術を修得できる学生の特性の解明、4) 科学的根拠に基づく知識と関連づけた演習の解明、5) 効果的な演習を展開する教員の教授活動の解明、6) 研究対象となる学生に対する倫理的配慮、7) 演習の教育効果を研究的に明らかにするための適切なデータ選択である。

【文献】

- 1) 厚生労働省：看護基礎教育検討会報告書（2019）
<https://www.mhlw.go.jp/content/10805000/000557411.pdf>（閲覧日：2021年8月10日）
- 2) 厚生労働省：保健師助産師看護師学校養成所指定規則の一部を改正する省令（2020）<https://www.mhlw.go.jp/hourei/doc/tsuchi/T201105G0040.pdf>（閲覧日：2021年8月10日）
- 3) 穴沢小百合，松山友子：わが国の看護基礎教育課程における基礎看護技術演習に関する研究の動向 1991-2002年に発表された文献の分析．国立看護大学校研究紀要 3, 54-64（2004）
- 4) 金城忍：看護基礎教育における看護技術教育に関する研究の動向 2001年-2009年に発表された研究論文の分析を通して．沖縄県立看護大学紀要 12, 105-112（2011）
- 5) 佐藤亜月子，城野美幸，吉田千鶴：基礎看護学の技術教育に関する研究の動向の文献分析 2003-2012年に発表された国内の研究論文の分析．帝京科学大学紀要10, 201-206（2014）
- 6) 三重野愛子，山澄直美：看護基礎教育における看護技術の教育方法に関する研究の動向 2011-2015年発表された研究を対象として．長崎県立大学看護栄養学部紀要 19, 21-34（2021）
- 7) 公益社団法人日本看護科学学会：日本看護科学学会学術用語検討委員会報告書．8,（2011）
- 8) 小倉一春：看護学辞典．「基礎看護学」の頁 433，メヂカルフレンド社（2003）
- 9) 舟島なをみ：看護学教育における授業展開．質の高い講義・演習・実習の実現に向けて 看護技術演習127，医学書院（2013）
- 10) 舟島なをみ：看護教育学研究 発見・創造・証明の過程 第3版．279-332，医学書院（2018）
- 11) 前掲書10）：290，
- 12) Berelson,B（稲葉三千男他訳）：内容分析．53-65，みすず書房（1957）
- 13) 吉本均：講座現代教育学5 現代教授学．61，福村出版（1977）
- 14) 石岡 洋子，平野互，小野 美喜：看護学生を対象にした質問紙調査を行う際の倫理的配慮に関する実態調査 看護教員の倫理的配慮に関する認識と実践．日本看護理学会誌 5, 12-21（2013）
- 15) 大学評価結果の用語集（2019年度版）：<https://www>

- juaa.or.jp/upload/files/accreditation/institution/result/university (閲覧日: 2021年9月29日)
- 16) 市川美奈子, 小池祥太郎, 沼田祐子他: 看護学生の自己学習活動及び共感性と看護術実技試験成績との関連. 青森保健医療福祉研究 1, 11-18 (2019)
- 17) 文部科学省: 中央教育審議会用語集. 37, https://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2012/10/04/1325048_3.pdf (閲覧日: 2021年9月29日)
- 18) 公益社団法人私立大学情報教育協会: 用語集. 328, https://www.juce.jp/LINK/pdf/teigen_44.pdf (閲覧日: 2021年9月29日)
- 19) 山本可奈子他: 臨床看護師のサポートをうけた基礎看護技術演習での学生の学びと継続にむけた課題 日本赤十字広島看護大学紀要 16, 1-10 (2016)
- 20) 河野かおり他: 臨床実習指導者と教員が協働した基礎看護技術演習の実践報告 獨協医科大学看護学部紀要 11, 65-75 (2017)
- 21) 文部科学省: 大学における看護系人材養成の在り方に関する検討会. (2019) https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/098/gaiyou/mext_00099.html (閲覧日: 2021年8月10日)
- 22) 見藤 隆子, 小玉 香津子, 菱沼 典子: 看護学事典 第2版. 161, (2011)
- 23) 安ヶ平伸枝, 菱沼典子, 大久保暢子他: 基礎看護学担当教員の捉える学生の特徴と教授学習方法の工夫. 聖路加看護学会誌 14, 46-52 (2010)
- 24) 青木一他: 現代教育学事典. 「学習の項」64, 労働旬報社 (1988)

(2021年10月1日受付、2021年12月24日受理)

Trends in Research on Basic Nursing Skill Training in the Basic Nursing Education Course

— Focusing on studies published between 2015 and 2021—

Mitsuyo WATANABE, Misae TATSUSHIMA, Hiroko KARASAWA

[Abstract]

Objective: To clarify trends in research on basic nursing skill training as a basis for discussing study topics needed to make such training more effective.

Methods: Prior research analysis in nursing pedagogy was used as the research method. Research papers published within the period between 2015 and 2021 were searched for using the Ichushi Web database, and 40 papers focusing on basic nursing skill training were adopted for analysis. Simple tabulation was performed for the subjects of these papers, and their topics were categorized based on semantic similarities.

Results: Among all studies, 85.0% only examined students. The topics related to basic nursing skill training were classified into 9 categories, including: the [educational effects of basic nursing skill training, consisting of active learning-type class sessions to promote students' autonomous learning activities] and [factors associated with students' autonomous learning activities in basic nursing skill training].

Conclusions: The following 7 topics may be appropriate for future studies: 1) the clarification of training approaches that promote students' active learning, 2) clarification of training approaches that create realistic feelings, 3) clarification of the characteristics of students who are able to acquire precise skills, 4) clarification of training approaches connected to evidence-based knowledge, 5) clarification of the teaching activities of faculty members developing effective training, 6) ethical considerations for students as subjects of study, 7) selection of appropriate data to clarify the educational effects of training.

Keywords: Basic nursing education course, basic nursing skill training

Department of Nursing, Faculty of Nursing, Mejiro University